

# 復習シート 第三学年 国語



|    |
|----|
| 組  |
| 番号 |
| 名前 |

1 次の文を読んで後の問題に答えましょう。

町田さんたちのクラスでは、パネルディスカッションを行っています。次はその【パネルディスカッションの一部】です。これらを読んで、後の問いに答えなさい。



司会(町田さん)

「東京オリンピックで訪れる外国の方に、埼玉のどんな魅力を紹介したいか」というテーマでパネルディスカッションを行います。今回は「スポーツ」、「伝統文化」、「自然」の3つの立場から意見を述べてもらいます。

小泉さん



私は埼玉の自然を紹介したいです。長瀬町の岩畳、日高市の巾着田など、埼玉県には自然が作り出す美しい風景があります。美しい風景は人の心を動かします。ぜひ外国の方にも知ってもらいたいと思います。

大嶋さん



私は埼玉の伝統文化について紹介したいです。小川町の和紙づくり、鴻巣市の雛人形など、埼玉には地域に根づく伝統文化があります。日本独特の伝統文化は外国の方にとって魅力的なものであると思います。

竹内さん



僕は埼玉のスポーツについて紹介したいです。さいたま市にはサッカーのプロチームが2つ、所沢市には野球のプロチームが1つあります。今年はラグビーのワールドカップも熊谷市で行われます。埼玉はスポーツが盛んです。東京オリンピックの会場にもなっているので、多くの外国の方に埼玉のスポーツについて知ってもらいたいです。



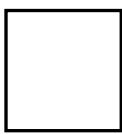
フロア(聴衆)

【話し方を説明したものとして最も適切なものを選択する問題】

レベル8・9

(1) パネリストの話し方を説明したものとして、最も適切なものを1～4の中から選びなさい。

- 1 自分の意見が採用されるように、ポイントを強調して話している。
- 2 自分の体験を踏まえて、意見に説得力を持たせて話している。
- 3 自分の意見と根拠を端的にわかりやすく話している。
- 4 相手の意見を否定するために具体的な事実を話している。

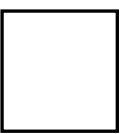


【司会者の役割を説明したものとして最も適切なものを選択する問題】

レベル8・9

(2) この後、司会はどのようにパネルディスカッションを進めていけばよいか。最も適切なものを1～4の中から選びなさい。

- 1 自分が考えている意見になるように発言する人をフロアから指名する。
- 2 それぞれの意見に対して賛成と反対の人数を確認して話を進める。
- 3 出された意見に対して、まず自分がどのように考えているか、自分の主張を強めて話す。
- 4 それぞれの意見の根拠と相違点を整理し、パネリストが討論しやすいように話す。



# 復習シート 第三学年 国語

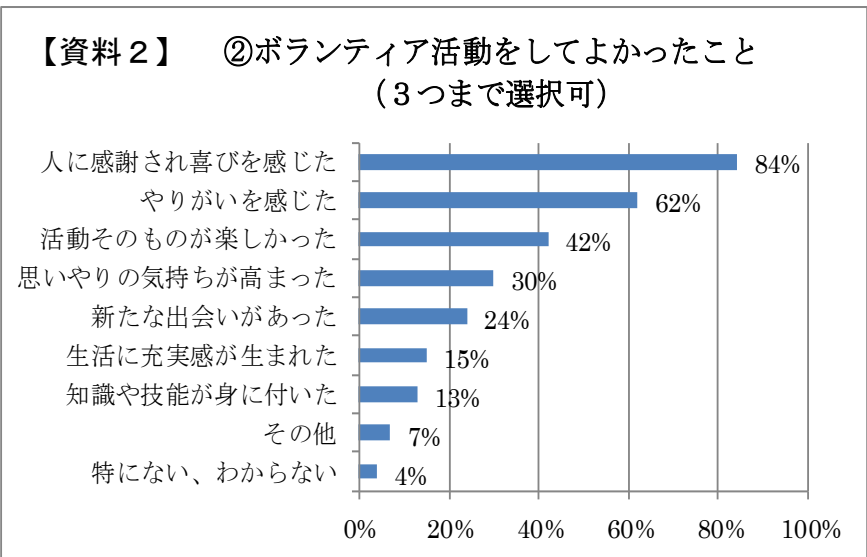
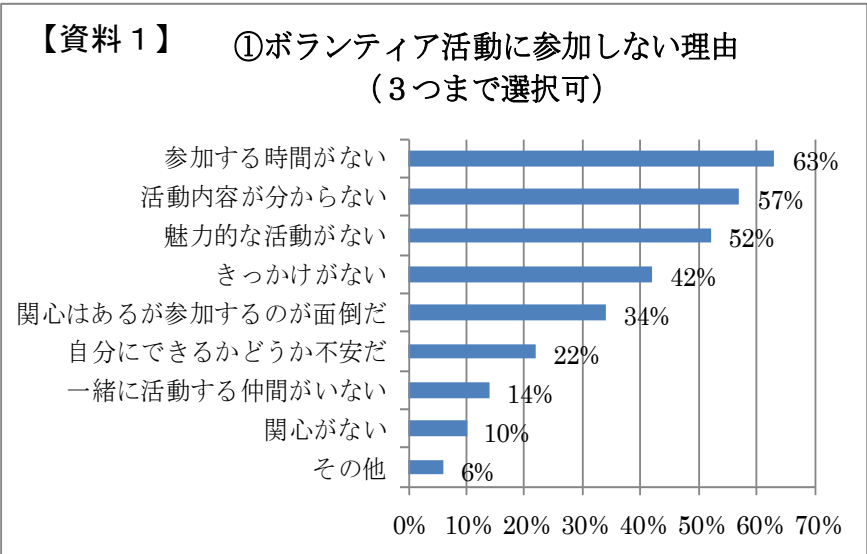


|   |    |    |
|---|----|----|
| 組 | 番号 | 名前 |
|   |    |    |

【資料を根拠としながら自分の考えを明確にして書く問題】レベル8～10.

1 次の問題を解きなさい。

A 中学校では、これまでボランティア活動として、夏休みに地域の清掃活動を行ってききました。しかし、最近、参加する生徒が少ないため、全校生徒にアンケートをとり、今後のボランティア活動のあり方について、生徒会本部で話し合うことになりました。次に示すのは、そのアンケート結果です。



【資料1】 【資料2】 を読んで、あなたなら生徒会本部として、今後、ボランティア活動の参加者を増やすために、どのようにするのがよいと考えますか。あなたの考えを明らかにした上で、その理由を次の条件1から条件3に従って書きなさい。

条件1 二段落構成で、七行以上、九行以内で書くこと。

条件2 一段落目には、今後のボランティア活動をどのようにするか、考えを明確にして書くこと。

条件3 二段落目には、その理由を【資料1】 【資料2】 の内容に触れて、具体的に書くこと。



# 復習シート 第三学年 国語



| 組 | 番号 | 名前 |
|---|----|----|
|   |    |    |

1 次の文章はA子さんが国語の授業で自分の体験をもとに書いた「物語」風作文です。これを読んだ

B君の感想等が、その後にあります。それらを踏まえて後の問いに答えなさい。

①その眼が嫌だった。

期末テストを返す先生の口から

「今回も最高点は小鳩だ。さすがだな、小鳩。」

という言葉が発せられた瞬間、彩に向けられたクラスメートの眼には、賞賛と羨望、そしてあきらめとある種の憎悪が含まれているように彩には思えた。名前を呼ばれ答案を受け取ったとき、先生は微笑みながら何か言葉をかけてくれた。反射的にお辞儀をしたものの、先生の言葉の意味は彩の心には全く届いていなかった。今自分に注がれているあの多くの眼からはやく逃れたい、そんな気持ち彩を支配していたのだ。そそくさと自分の席に戻ると、すぐに答案を机にしまい、あの眼から逃れるように視線を机に落としたまま、彩はその後の授業を受けていた。梅雨空から落ちる雨粒が、彩のすぐ横の窓ガラスを休むことなくたたいている。その小さな音だけが、彩の耳に届いていた。

中学三年生ともなると、友達どうしで話していても勉強のことが話題になることが多い。しかし彩を取り巻く友達たちはその話題になると決まっ

「彩はいいわよね、できるから。」

とうらやましそうにつぶやくのだ。そして、急にその場は何とも言えず気まずい雰囲気となってしまう。遠巻きに話を聞いている男子などは、

「勉強ができるからって、えらぶんじゃないよ。」

と聞こえよがしに言ったりもするのだ。さすがにそんな声を耳にすると、友達の咲良さくらなどは、

「彩はそんな子じゃないわよ、何言っているの！」

といさめてくれる。そんな咲良でさえ、最近は時々彩と距離をとるような素振りを見せることがあるのだ。

期末テストが返されてから数日は、特に勉強や進学の話が多かった。教室は、彩にとって居心地の悪い空間となってしまっていた。

「私だって、何もしないでいい点数をとっているわけじゃないのよ。」

彩は思い切り叫びたい衝動にかられていた。

「遊びたい、テレビを見たい、音楽を聴きたい……、そんな気持ちを抑えて頑張っているのに……。私の努力や苦勞にはちっとも目を向けず、私のことを特別だなんて思ってる。」

帰りの会を終えた教室では、だれかれとなく二学期のはじめに行われる文化祭について話していた。学活で先生の言っていた文北祭実行委員を誰にするかがその話題の中心だった。不意に誰かが

「小鳩にやらせればいいじゃないか……。」

と言った。

この言葉を耳にした瞬間、彩の中で張りつめていた何かがつつんと切れた。

ガタン！

彩のいすが大きな音をたてた。

「何でも私にばかり任せないでよ！ わたしだって、<sup>②</sup>わたしだって……。」

震える声を必死に押さえながらようやくこれだけの言葉を発し、彩は教室を駆け出して行った。

※校庭の隅で彩は一人立ちつくしていた。昨日までの<sup>③</sup>長雨でぬかるみきつた泥が彩の靴を汚している。

「みんな大変なことは何でも私にやらせようとする。ああ、もう何もかもが嫌になっちゃった。一生懸命やる人が損をするんだ。ばかみたい。いいかげんに自分の好きなことやってた方がずっと楽でいいや。」

汚れた靴で小さく蹴飛ばしている泥をながめながら、彩はつぶやいてみた。

ピシッ、ピシッ、ピシッ、……。規則正しいリズムで小さな音が彩に近づいてきた。誘われるように、彩はにじむ視界をその音の方に向けた。環だった。陸上部の環は、帰りの会が終わるやいなや体育着に着替え、ぬかるんだ校庭を一人走っていたのだ。環は決して陸上部でも速い方ではなかった。むしろ遅い方であった。

「よう、どうした？ 小鳩が一人でこんなところにいるなんて珍しいな。」

彩に気づいた環が、足踏みしながら声をかけた。

「……………」

彩は答える言葉を発せられなかった。

「小鳩でも、そんな顔することがあるんだな。」

その言葉がその時の彩の感情を逆撫でた。

「どうでもいいでしょ。あんたこそ、なんでこんなぐちゃぐちゃの所を走ってるのよ！」

彩は自分の言葉の棘<sup>とげ</sup>に少し戸惑ったものの、環に向けた強い視線をそらさなかった。<sup>④</sup>その視線と言葉に、環の足踏みが止まった。腕で流れる汗をぬぐって、環はじつと彩を見つめ、それからこう言った。

「俺、今度の大会で部活引退なんだ。決して速くはないけど、俺は俺なりに一生懸命やってきた。だから最後の大会を、自分が満足できるように迎えたい。一緒に走るヤツには負けちまうかもしれないけど、自分にだけは負けたくないんだ。」

言い終えると、環は足踏みを再開した。

「そう、自分に負けたくないんだ。」

つぶやくようにもう一度言うのと、

「じゃあな！」

という言葉を残して、またぬかるんだ泥の中へ駆け出していった。環の後ろ姿を追った彩の視線の向こうに、厚い雲の合間にのぞく青空があった。

「あやあー」

ぬかるみの中を咲良が走ってきた。

「ごめんね、彩。何でもみんな彩にばかり押しつけちゃって……。わたし……。クラスのみんなに言っただけじゃなかった。でも、私も、<sup>⑤</sup>彩をそんな眼で見ってしまったのかもしれない……。ほんとにごめんね。」

さっきとは違う目頭の熱さを感じ、彩は涙がこぼれ落ちないように上を向いた。彩を覆うように広がっているケヤキの枝に、セミの抜け殻が一つしがみついていた。その先の大きく広がった青空を見つめながら、「☆  
「、そんな気持ち彩の胸に広がっていた。どこかで蝉の鳴く声が聞こえた。」



問四 「 e 」に入る文として最も適切なものを、次のア～エから選び、その記号を書きなさい。

B…④その視線と言葉に、環の足踏みが止まった。とあるけれど、この時の環の気持ち  
ちは、「 e 」というところじゃないかな。

ア 彩があまりに怒って突っかかってくるので、頭にきて何か言い返したくなった。  
イ 彩があまりにも真剣な表情で見つめていたので、質問にすっかり答えようと思った  
ウ 彩がしょんぼりしているので、心配になって、何でもいいから答えようと思った。  
エ 自分がひそかに練習している理由を聞かれたので大会にかける熱意を話したくなった。

問五 次の「 f 」に入る一文を※印より前の部分から探し、その初めの五字を書きなさい。

B…「 f 」⑤彩をそんな眼で見ってしまったのかもしれない……。とあるけれど、  
「 f 」という文に咲良のその態度が表れているね。

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |

問六 次の「 ☆ 」に入る彩の言葉として最も適切なものを次のア～エから選び、その記号を書きなさい。

B…本文中の「 ☆ 」に、彩の気持ちがよく表れているよね。

- ア 文化祭実行委員、引き受けてみようかな。
- イ 文化祭実行委員、咲良にやってみよう。
- ウ 文化祭実行委員、もう一度きっぱり断ろう。
- エ 文化祭実行委員、適任者はやっぱり私だな。





# 復習シート 第三学年 国語



|    |
|----|
| 組  |
| 番号 |
| 名前 |

### 【適切な語句・敬語を選択する問題】 レベル8～10.

1 アからエの文では、（ ）の中の1から4までのうち、どれが最も適切ですか。それぞれ一つずつ選びその番号に丸をつけなさい。

- ア みんなの注意を（1 歓喜 2 喚起 3 寒気 4 換気）する。  
 イ 災害に備えて手を（1 置く 2 合わせる 3 かえす 4 打つ）。  
 ウ 作りたては（1 たぶん 2 全然 3 まるで 4 決して）おいしいだろう。  
 エ 先生が給食を（1 食べれる 2 いただく 3 召し上がる 4 いただくれる）。

### 【動詞の活用形・品詞の分類・助詞の意味の判別に関する問題】 レベル8～10.

2 次の各問いに答えなさい。

(1) 次の傍線部の動詞で、他と活用形の異なるものを選び、その記号を書きなさい。  
 ア 夕食前に勉強しよう。 イ 自分の考えを曲げない。  
 ウ 絵本を読ませる。 エ 違いが分かった。

(2) 次の傍線部で、他と品詞が異なるものを選び、その記号を書きなさい。  
 ア そこに意外性はない。 イ 自動車には乗らない。  
 ウ まったくお金がない。 エ 棚には何も無い。

(3) 次の傍線部で、他と意味・用法が異なるものを選び、その記号を書きなさい。  
 ア 部屋の片付けをする。 イ 大雪の降った地方に行く。  
 ウ みんなの望んだ結果が出る。 エ 星の輝く夜空を見上げる。

### 【古文の内容を読み取り、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題】 レベル8～10.

3 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

二十五日、菊川を出でて、今日は大井川といふ川を渡る。水いとあせて、聞きしには違ひて、わづらひなし。河原幾里とかや、いとほるかなり。水の出たらむ面影、おしはからる。  
 （阿仏尼『十六夜日記』）

① 傍線部①「いふ」②「わづらひ」③「出たらむ」を現代仮名遣いに直しなさい。

①  ②  ③

② 傍線部④「おしはからる」の意味を次から選び、その記号を書きなさい。  
 ア 計測できる イ 思い出せる ウ 想像される エ 言うことができる